

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.141

平成28年度の消費生活相談報告

◆相談件数 313件(前年度比31件減)

相談件数は減少していますが、相談内容は多岐にわたっています。また、60歳以上の方からの相談が多い傾向にあります(全体の約43%)。

◆相談の主な概要

【インターネット情報サービス(39件)】

大手動画配信会社や通販会社の相談窓口を名乗り、携帯電話に料金未払いのショートメッセージを送付し、コンビニなどで電子マネーを購入させる被害が多発。還付金詐欺も増加しています。

【融資サービス(31件)】

多重債務や融資に関連する相談が大半を占めています。

【インターネット接続回線(16件)】

光回線・プロバイダなどで大手電話会社と勘違いして通信料金が安くなると電話勧誘され口頭で契約成立。遠隔操作で切り替えられ解約を希望すると高額な違約金を請求される被害が急増しています。

【不動産賃借(8件)】

土地代の値上げや、解約時に発生する賃貸アパート原状回復などの相談が増加しています。
※不審に思った時は、お金を支払う前に消費生活センターにご相談ください。

おもてなしコラム 14

西脇市では、平成28年1月に「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。地域食材の魅力について認識を深め、その魅力を広く発信し、本市にさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課(市役所内線323)

旬の野菜でおもてなし

北はりま旬菜館では、旬を迎える野菜を使って季節ごとにイベントを開催しています。

4月には『春のわくわく旬菜まつり』と題して、特製たけのご飯、たけのこと春野菜の天ぷらを販売しました。まさしく、たけのご祭り!! イベント開始と同時に長蛇の列ができ、早々と完売してしまいました。店内で召し上がられたお客さまからは、「おいしかったです」というお言葉をいただき、心がほっこりする瞬間がありました。

普段野菜を育てているだけではお客さまと接することがあまりなく、生の声を聞くことができる機会としてイベントに参加しています。お客さまからのうれしい言葉を聞くと、明日からも「おいしい」と言ってくださる野菜を作ろうという意欲がわいてきます。

これからも丹精込めた野菜を出荷していきますので、皆さまのご来店を心からお待ちしております。

北はりま農産物直売所出荷者協議会



「春のわくわく旬菜まつり」で出荷者による対面販売が行われました。



▲こどもプラザでの職業体験(昨年のトライやる・ウィーク)

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—
教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

中学生が職業体験「トライやる・ウィーク」を実施

「トライやる・ウィーク」は今年で20年目を迎えました。今年には市内4中学校の2年生が、6月5日(月)〜9日(金)の5日間、市内(一部は市外で実施)の109カ所の事業所にご協力いただき職業体験をします。元気いっぱい2年生に、温かいご声援と応援をお願いします。

トライやる・ウィークは、職業体験などを通して中学生が自分たちの生き方を見つけられるよう「心の教育」として平成10年に始まりました。「トライやる」という言葉には、挑戦する「トライ」とともに、学校・家庭・地域の三者「トライアングル」の意味が込められています。

西脇トライやる「オリジナルワッペン」をつけて活動

今年の「トライやるワッペン」は、南野加奈さん(西脇中学校2年生)のデザイン。2年生の干支である未と申をモチーフに、西脇中学校の2年生の皆さんがデザインを考えました。



西脇中学校2年生 南野加奈さん

バンク登録ありがとうじざい

2017年にバンク登録をいただいた事業所は、19カ所。中学生の希望により活動場所を決定したため、ご厚意にお応えできなかった事業所の皆さまにはお詫びいたします。来年度も、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

地域に活かす「トライやる」アクション

市内の中学生が地域の皆さんと一緒に、地域の中でさまざまな体験活動ができる場をご提供ください。
▽期間 土・日曜日、または長期休業中
▽対象 中学1〜3年生
▼問合せ 学校教育課(市役所内線527)

心のスケッチ

99

人権教育室コラム

人権文化あふれる社会を創造するために

人権文化あふれる社会とは、一人ひとりが大切にされ、いきいきと輝いている社会のことです。人権感覚を磨き、意識を高め、人権が大切にされる社会をつくるために何が大切でしょうか。一緒に考えてみましょう。

- ①自分を受け入れる
欠点や短所も含めて、まるごと自分を受け入れ、自分のことが好きという感覚(自尊心)を持つことが大切です。自分のことが好きになると、周りの人を大切にしようとする感覚が芽生えます。
- ②相手を思う想像力を育む
知らず知らずのうちに他人を傷つけてしまうことがあります。お互いのことを大切に、相手を思う想像力を育むことが大切です。
- ③自他ともに大切に
自分のことを優先して主張すると、他人の思いを軽視することにつながる場合があります。自他ともに大切にすることを大切にしてください。
- ④支え合う心を持つ
人はひとりではなく、支え合って生きています。他人の人権を守ることが、自分自身の人権を守ることに繋がります。
- ⑤つながる命を感じる
私たちの命は祖先から受けつがれてきたものです。人間以外の生き物や自然環境の保護など地球規模で考え、かけがえない命を未来にバトンタッチすることが大切です。

私は、この5つのキーワード「自尊心」「想像力」「感性」「支え合い」「命」を意識しています。人権感覚を磨き、豊かな生き方をするために、いつも心に留めています。

先日、外国籍の方や障害のある方との交流会に参加しました。交流会を通して、お互いの違いを認め合い、自他ともに大切にすることの素晴らしさに気づき、これまでに感じたことのない心地よい感情が芽生えました。

国籍、性別、障害の有無などに関わらず、誰もが夢や希望を持っていきいきと生きていける社会をつくるため、さらに人権感覚を磨こうと思えました。(人権教育室)

市長からの手紙

西脇を元気に!!

41



西脇市長 片山象二

西脇高校生が政策提案! 金ゴマ増産へ新たな取り組み

西脇市では今年度から「日本のへそゴマ」増産に向けて新たな取り組みを始めます。西脇市の金ゴマは無農薬で栽培され、香りがよく品質も高いことから、世界グランプリに輝いたエスコヤマ(三田市)のチョコレートにも使われるなど、多くの需要があります。しかし、作付面積は平成22年度の8.2haをピークに平成28年度は2.3haに減少。出荷量も4.1tから0.98tと大きく減ったことから、供給が追い付かない



日本のへそゴマ増産へ向けた提案書を市長に手渡す西脇高校生

状況が続いています。金ゴマ農家の減少にはいくつか理由がありますが、その一つは生産に多くの手間がかかることです。そこで、金ゴマ農家の担い手不足解消や持続可能な生産体制づくりを目的として、「農家と障害者サービス事業所通所者の連携」「農業ボランティアの活用」を試行的に実施します。将来的には農作業の一部を委託できる体制づくりを目指します。

この取り組みは、西脇高校生活情報科生徒4人が全国高校デザイン選手権大会で発表した「第二次金ゴマ革命」を、市が新規事業として取り入れたもの。また、財源には企業版ふるさと納税を活用して本事業を応援していただきます。今後も市民の皆さんからのご意見ご提案を積極的に取り入れながら、市政運営に当たってまいります。このまちで住んでいることを誇れる「西脇市」をともに創っていきましょう。